

ルーマニア日本語プレゼンテーションコンテスト

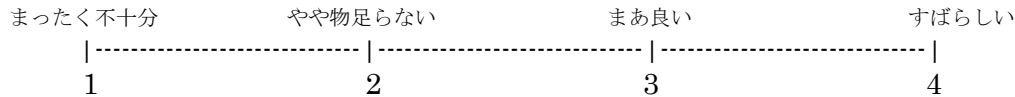
審査基準

テーマ

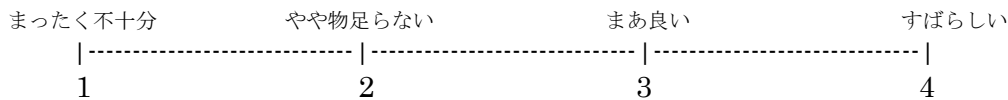
A 部門「私と日本との出会い」

B 部門「日本人の知らないルーマニアのおすすめ」

A. 内容全般：部門のテーマに沿っている。
内容は個性的かつ主張も明確で、聴衆の興味をひく内容である。

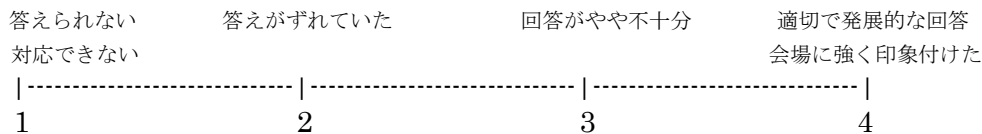


B. 聴衆へのアピール度（声の大小強弱・間の取り方・目線・姿勢・ジェスチャーなど）

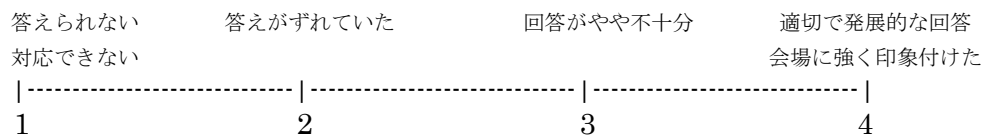


C. 質疑応答：質問を理解し、適切に答えることができる。

質問 1



質問 2 (B 部門のみ)



注：

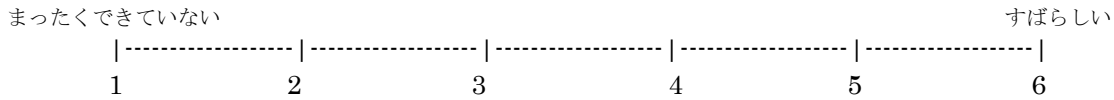
PPT などの視覚補助を使うことは、本コンテストでの発表の際の義務ではありません。もしも、視覚補助がなくても、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションができた場合には、視覚補助がないことに関して、評価を下げることはなさないようお願いいたします。

ルーマニア日本語プレゼンテーションコンテスト（日本語教師）

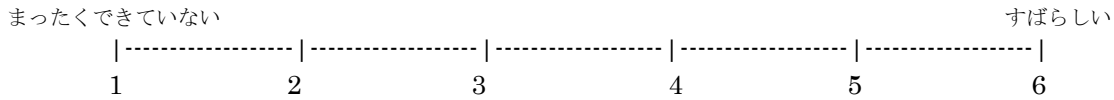
審査基準 A 部門

A 部門 テーマ「私と日本との出会い」

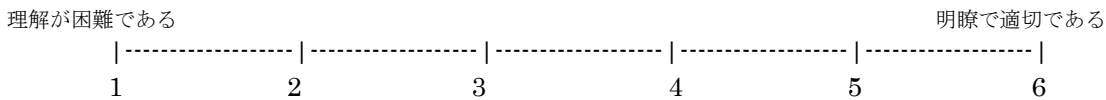
A. 内容全般：部門のテーマに沿っている。
内容は個性的で、言いたいことが明確に伝えられており、聴衆の興味をひく内容である。



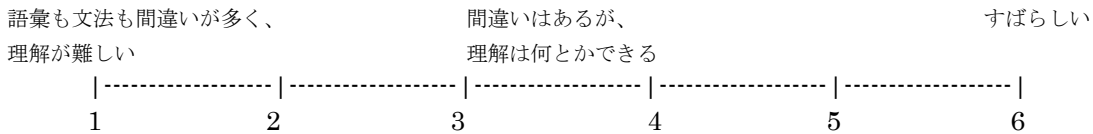
B. 構成：基本的な接続表現などを使って、主張を展開できる。要点を明確に述べることができる。



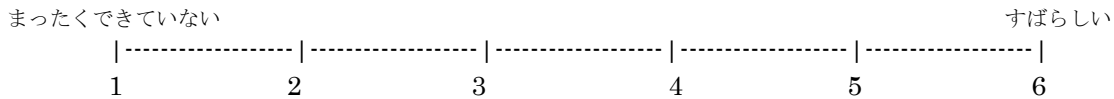
C. 音声：アクセント・イントネーション・個々の語の発音などが明瞭で適切である。



D. 言語構造：自分の選んだトピックや日常生活に関する語彙、文法を正しく使って、十分に表現できる。



E. 提示効果：口頭発表とスライドなどの視覚的補助との関連性があり、効果的に使用されている。
(視覚的補助を使用しない場合：視覚的補助がなくても聴衆に分かりやすいプレゼンテーションができている。)



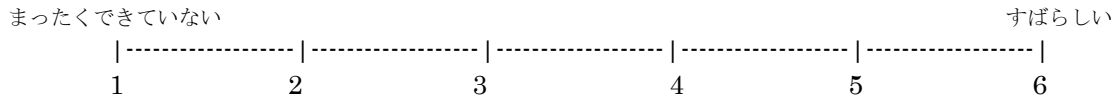
F. 質疑応答：質問を理解し、適切に答えることができる。



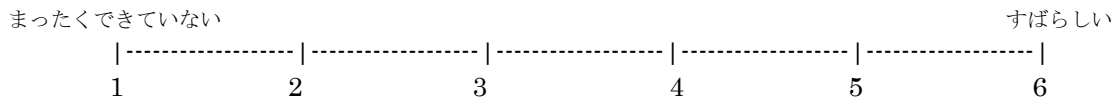
日本語プレゼンテーションコンテスト 審査基準 B 部門 (日本語教師)

B 部門 テーマ「日本人の知らないルーマニアのおすすめ」

A. 内容全般：部門のテーマに沿っている。
内容は個性的かつ主張も明確で、聴衆の興味をひく内容である。



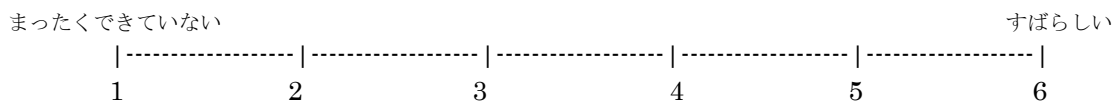
B. 構成：様々な接続表現を効果的に使い、例をあげたり、要点を明確に述べるができる。
主張が導入から結論に至るまで、論理的に一貫している。



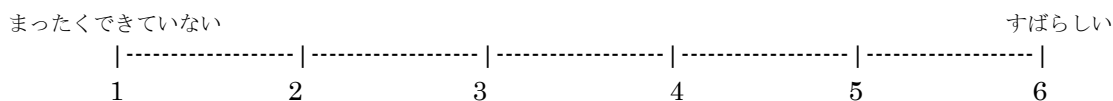
C. 音声：アクセント・イントネーション・個々の語の発音などが明瞭で適切である。流暢さも高く、声の大きさや抑揚を使って、聴衆をひきつけることができる。



D. 言語構造：自分の主張を明確に述べるための、幅広い語彙や文法を正確に使うことができる。



E. 提示効果：口頭発表とスライドなどの視覚的補助との関連性があり、効果的に使用されている。
(視覚的補助を使用しない場合：視覚的補助がなくても聴衆に分かりやすいプレゼンテーションができている。)



F. 質疑応答：質問を理解し、適切に答えることができる。

(質問 1)



(質問 2)

